

2024年3月17日

「苦難をこえて」

ルカによる福音書 9:18-27

竹島 敏牧師

今朝の聖書箇所少し前には、主イエスが行った数々の癒し、奇跡の業が記されています。主イエスの業は罪に定められてしまった人の解放と尊厳の回復でありました。そして巡回して宣教し、神の国について説き明かしをすると故郷のナザレでは受け入れられず、また、安息日に会堂で人を癒して怒りをかう…。人々はイエスを何者だと思ったのでしょうか。人は誰でも完全に理解され受け入れられることはないのかもしれませんが。そのような意味においては孤独な存在であるのでしょうか。しかしペトロのようにイエスを自分の救い主と信じ、この方に従って歩むなら、苦難の多い孤独な道もすでに主イエスが先立って招いてくださっていることを見出すことができたなら、それはやがて復活へと導かれる輝かしい道へとなっていくことを、聖書は語っています。

23節 24節において勧められているのは、この地上で自分に与えられている時間を献げること、それが「イエスのために命を失う」という生き方です。そしてそれが自分の命を救うというのです。そしてその具体的な生き方として、自分の十字架を背負う生き方をイエスは弟子達に勧めます。「日々、自分の十字架を背負う」とは、私達がすでに背負っているもの、背負わされているものの中に十字架を見出し、背負う意味を見出すということでありましょう。今、自分に与えられている課題や苦しみの中に十字架を見出し、希望をもって歩みなさいということです。それが命の尊さと儚さ、そしてどう生きどう死んでゆくかを問われている私達が、本当の命満たされる、救われて生きる生き方へと導かれる道であります。十字架の主を見つめながら、苦難を超えて復活へ至る道を、救われて生きる道を共に歩んでゆけますように。